

# 大学受験指導をコミュニケーションに —プロセスアプローチを活かしたライティング授業実践—

## Making Entrance Exam Teaching Communicative: Report on a Writing Practice using a Process Approach

柳 田 綾  
Aya YANAGIDA

Essay writing is often excluded or skipped in high school English education because it is thought to take time and to not help students to pass entrance examinations. Also, many teachers find it difficult to balance developing students' communicative abilities and their ability to pass entrance examinations. In this paper, I explain how I applied a process approach to high school writing classes and how I modified writing tasks in a workbook to make them more communicative. I argue that a process approach in writing is beneficial for students in developing critical thinking skills as well as grammatical knowledge through peer feedback and opinion exchanges. I suggest teachers create environments where students use English in meaningful contexts and can relate their own experiences to writing tasks.

キーワード：大学受験指導、ライティング、プロセスアプローチ、コミュニケーション

### 1. はじめに

#### 1.1 実践の契機

本実践の契機は、第二言語習得や英語教授法について有益な研究が数多くなされているにもかかわらず、それが教育現場まで伝わっておらず、応用もされていないのではないかと疑問を感じたことである。その主な原因の一つとして、教師の多忙さが挙げられる。筆者が高校教師だった頃を振り返ると、毎日忙しく休日も部活動・補習等の業務があり、自己研鑽をしたくてもその時間を取ることができないことが多々あった。そのため、研究者の知見を高校英語教育に還元し、また高校教師の多忙さを解消するために何らかの形で自分が貢献したいという想いを抱いていた。それを知ったある公立高校英語教師が勤務先の管理職に働きかけてくれ、「休日講座国公立大学英作文講義」という特別講座を担当させていただくことになった。多くの進学校では、国公立大学志望者への英作文の指導はセンター試験後の二次試

験対策の時期に行われる。英語教師一名が数人の生徒を担当し、個々の生徒の英作文を添削し助言するという指導が一般的である。英作文の個別添削指導は時間とエネルギーを要し、多忙をきわめる高校教師にとって負担となる場合が少なくない。4月から7月という早い時期に生徒が英文ライティングの基礎を学んでいれば、二次試験前の個別添削指導もスムーズに進むと思われた。このような経緯で、筆者が2018年4月から7月まで合計6回、高校3年生の国公立大学志望者を対象に「休日講座国公立大学英作文講義」という補習授業を担当することとなった。

## 1.2 実践の背景

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説・総則編第1章第1節に、育成を目指す資質・能力として（ア）「知識・技能の習得」、（イ）「思考力・判断力・表現力等の育成」、（ウ）「学びに向かう力・人間性等の涵養」の三つの柱が示されている。しかし、「中高の英語指導に関する実態調査2015」（ベネッセ教育総合研究所）によると、高等学校英語授業における指導方法・活動内容は、「よく行う」「ときどき行う」を合わせると「音読」が最も多く（94.7%）、次いで「発音練習」（92.3%）「文法の説明」（89.4%）といった知識・技能のための活動が多い。対照的に、「自分のことや気持ちや考えを英語で書く」は43.0%、「即興で自分のことや気持ちや考えを英語で話す」が29.4%、「英語で教科書本文の要約を書く」は28.9%と、「話す」「書く」といった思考力・判断力・表現力に関わる活動の実施率が低い。

また、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編の第3章・第2節の2「内容の取扱いに当たっての配慮事項」（1）には、「単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容の（1）に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること」とある。しかし、Kobayakawa（2011）の高等学校英語教科書における「書くこと」の課題比較分析によると、英語Ⅰ・Ⅱの教科書では制限作文（Q & A、穴埋め問題、適語補充問題、並べ替え問題）、ライティング教科書では和文英訳や制限作文の課題が多く設定されており、誘導作文と自由英作文の占める割合が少ないことが明らかになっている。このように、実際に使用されている教科書のタスクは文法・形式重視であるにもかかわらず、学習指導要領はコミュニケーション活動を行うよう教師に求めているのである。

この矛盾は、前述の「中高の英語指導に関する実態調査2015」（ベネッセ教育総合研究所）の「指導において、英語教員が重要だと思うこととその実行についてのギャップ」という項目にも表れている。「生徒が英語を使う言語活動を行う」ことを重要だと思っている（71.3%）が、十分実行しているとの回答は19.0%、「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」ことは約7割（66.8%）が重要視しているものの、実行率はわずか9.9%である。さらに、教員が抱えている悩みとして「英語教師に求められることが多くて負担である」

(75.2%)、「コミュニケーション能力の育成と、入試のための指導を両立させることが難しい」(74.4%)、「効果的な指導方法が見つからない」(60.3%)などが上位に挙げられている。これらの結果から、英語教員は思考力・判断力・表現力につながる「話す」「書く」力やコミュニケーション能力の育成が重要だと充分認識しているものの、教科書にコミュニケーション的なタスクが少ないこと、入試指導とコミュニケーション能力育成の両立方法に関する知識・経験・自信が不足していること、また多様な業務が負担となっていることが窺える。

## 2. 先行研究

日本の英語教育は流暢さを犠牲にして言語形式を過度に重視していること、またライティングにおけるプロダクトアプローチに依存してきたことで長い間批判されている (Andrews, 2016)。言語構造の知識や書かれた結果を重視するプロダクトアプローチとは対照的に、プロセスアプローチは「計画・下書き・改訂・編集」といった書くプロセスに重点が置かれる。Kurihara (2014) は日本の高校でプロセスライティングを導入し、生徒間および教師によるフィードバックがライティングの質と流暢さの向上に効果があることを明らかにしている。また、教師から学習者へのフィードバックについては、大井 (2008) が「励ましのコメント」や「元気の出るコメント」を推奨しており、太田垣 (1990) も生徒の英作文に好意的で励みになるコメントがあると、それがたとえ当を得ていなくても作文力の向上につながることを報告している。Andrews (2016) は、ライティングプロセスと学習者の経験に加えて、書く目的や社会的文脈を考慮に入れたプロセスジャンルアプローチが日本の高校生に有益であると主張しており、生徒たちのニーズを分析することと、生徒と関連しているタスクを設定することを提案している。達川 (2002) は学習者に思考力・判断力・表現力を身に付けさせるためには、学習者自身に思考・判断・表現する機会 (絶対量) を提供することが何よりも重要であるため、教師主導の知識伝達型の授業ではなく、生徒と教師、生徒同士に相互作用が存在する授業を提案している。

これらの理論的示唆を踏まえ、(1) 生徒が書く目的とニーズ (国公立大学受験対策) に合った授業内容とする、(2) 生徒の経験とライティングタスクを関連づける、(3) 書くプロセスにおいて協同的活動・コミュニケーション活動を多く取り入れる、(4) 筆者からのフィードバックに必ず英作文の良い点・励ましのコメントを含める、の4点を実践に含めることにした。

## 3. 実践の内容

### 3.1 実践の目的

本実践の目的は、プロセスアプローチに基づくライティング作成方法を高校生に伝えるこ

とと、大学入試指導とコミュニケーション能力の育成を両立させる指導法としてのプロセスアプローチの効果と課題を検証することである。生徒の英作文の誤答分析と、実践後のアンケート調査（選択式・記述式）の結果を元に、実践の効果と課題を考察する。

### 3.2 実施期間と対象者

本実践は、2018年4月から7月まで合計6回、県立高校3年生を対象に行われた。講座名は「休日講座国公立大学英作文講義」で、一講座は午前10時から12時までの120分である。希望制のため講座の参加人数は各回により異なった。対象者が所属する高校は地区においてトップ2にあたる進学校で、本実践に参加した生徒は全員が国公立大学志望者である。部活動にも積極的に参加している生徒が多く、講座と部活動の試合が重なったためプリントのみを持ち帰っても良いか申し出る生徒が数名いた。また、時間内に英作文を書き終えることができなかった場合、後日提出して添削指導を希望する生徒もいた。全体的に、生徒たちの受講態度は極めて真面目で前向きであった。

### 3.3 講座の内容

各講座の内容は以下の表1の通りである。主な使用教材は「Simple Skills for English Writing (文英堂)」で、連絡を取り合っていた高校教員から使用を依頼されたものである。より語数の多い入試問題に対応するため、「自由英作文編 英作文のトレーニング [改訂版] (Z会)」も使用した。第3回目の講座では「大学入試自由英作文論題のジャンル分析 (塩川, 2018)」の一部を紹介し、大学入試の自由英作文においてどのジャンルがどの程度の割合で出題されているかを扱った。また、第4回目の講座では「クリティカルにエッセイを書く (大井, 2006)」から「英語の“essay”と日本語のエッセイの違い」について、日米の大学生が書いた

表1. 各講座の内容

日時	授業内容	英作文の内容・語数	参加人数
4月28日	対話文・説明文を書くコツ (Flow, Recycle, Easy, Edit: “FREE”)、ブレインストーミング、抽象と具体	対話文・説明文 (20語)	15名
5月3日	前回の復習、よく見られた誤り (コモンエラー) を解く＋解説、対話文・説明文 (続き)	対話文・説明文 (30-40語)	26名
6月9日	前回の復習、自由英作文のジャンル分析 (塩川, 2018) 紹介、パラグラフの構造 (ハンバーガー理論)	意見文・感想文 (40語)	26名
6月16日	前回の復習、日英のエッセイの違い (大井, 2006)	意見文・感想文 (60-80語)	26名
6月30日	前回の復習、よく見られた誤り (コモンエラー) を解く＋解説、つなぎ言葉	意見文・感想文 (100語)	21名
7月14日	これまでの総復習	意見文・感想文 (100語)	14名

文章を比較してそれぞれの特徴について比較・検討する機会を設けた。生徒が取り組む英作文課題の語数は回を経るごとに徐々に増加させ、語数の多い英作文を段階的に書くことができるように授業設計を行った。

### 3.4 授業の流れ

各講座における授業の流れは、図1の通りである。まずなるべくお互い面識のない生徒同士が着席しペアやグループを組むように促した。当日の目標を確認した後、2)、3)では協同学習の技法を活用して答え合わせや意見交換を行った。具体的には、ブレインストーミングではペアで交互に1つずつアイデアを出し合う(ラウンドロビン)、よくある間違いについては正答をまず個別で考えた後パートナーに伝え、その後クラス全体で共有した(Think-Pair-Share)。5)では生徒が英作文を交換し、言語面(単語・文法・語法)と内容面の両方に関してピア・フィードバックを行った。6)ではライティング課題を提出後、筆者が文法・語法などを添削しコメントを書いたのちに次の週に返却した。7)の振り返りでは、「パートナーと協力して授業に臨むことができたか」と「授業のキーポイント・印象に残ったこと」を生徒が振り返りシートに記入し、提出した。振り返りシートも毎回筆者がコメントを書き、次の週に生徒に返却した。

1) ペア・グループ同士で着席→ 2) ライティングに関する基礎知識(ブレインストーミング、パラグラフの構造など)・前回の授業の復習(よくある間違いの共有・前回の課題の返却)→ 3) ライティングの構造・書く上でのコツについて講義→ 4) 個人でライティング課題(国公立大学入試過去問題)に取り組む→ 5) ピア・フィードバック→ 6) ライティング課題の提出→ 7) 振り返りシートを記入、提出

図1. 授業の流れ

#### 3.5.1 第1回講義：4月28日(資料1)

教室で人数を確認した後、一人ずつランダムに番号を振ってお互い面識のない生徒同士で着席し、ペアを組むよう指示した。筆者の自己紹介、ペア間での自己紹介の後に本日の目標(対話文・説明文を書くコツを理解し使うことができる、英作文における自分の強みと弱点を把握する)を共有した。使用テキストの第14章「対話文・説明文を書く」の例題を、本来は会話を文字で書いて補うものであるが、書く前にスピーキング活動として生徒たちがペアで会話をを行った。また、例題1では「宇都宮市で美味しい餃子を食いたい」という文章であったが、生徒たちが所属する高校がある市の名前に変えて会話をを行った。その後、対話文のコツを4つ、「FREE」という頭文字として紹介した。「F」=「Flow」(会話の流れを把握する)、「R」=「Recycle」(問題文の英語をリサイクルして活用する)、「E」=「Easy」(自分にとって簡単な英語で書く)、「E」=「Edit」(書いたら編集する・読み直す・書き直す)の4つである。生徒はこの4つを踏まえて、例題を再度書き直した。模範解答を紹介し、各自がそれを書き写し自

分の英文を添削するなどした。

次に、「うちわについて20語程度の英語で説明しなさい」という説明文を書く例題2に各自で取り組んだ。その後、2つのコツ「ブレインストーミング」と「抽象→具体」について解説した。生徒はペアで「うちわ」に関するキーワードを「古今東西ゲーム」のようにどんどん挙げてアイデアを出し合った(ブレインストーミング)。次に、プリントの中央に「うちわ」と書かれているので、そこから放射状に枝を伸ばしてキーワードを個人で書いた(マインドマップ)後、ペアでキーワードを共有した。マインドマップをクラス全体で共有した後、説明文を書く際は「抽象→具体」の順に述べるよう説明をした。そして、2つのコツを踏まえて生徒はもう一度例題2を書き直した。例題1と同様、模範解答を示した後に各自が自分の英文を添削した。振り返りシートを配布し、「今日の授業では積極的・協力的に取り組んだか」と「今日のキーポイント・学んだこと・印象に残ったこと」を生徒はシートに記入し、書いた英文プリントと振り返りシートを筆者に提出した。

### 3.5.2 第2回講義：5月3日(資料2)

第1回講義と同様、生徒に番号を振ってお互い面識のない者同士で着席し、ペアになるよう指示した。筆者の簡単な自己紹介、ペア間での自己紹介の後に本日の目標(対話文・説明文を書くコツを理解し使うことができる、英作文における自分の強みと弱点を把握する、よくある間違いを理解し正確な英文を書くことができる)を共有した。前回の復習として、例題1(対話文の空所にセリフを補充する)と例題2(うちわを20語程度の英語で説明する)にペアで取り組み、その後3つのコツ(FREE、ブレインストーミング、抽象→具体)を紹介した。次に、前回生徒が書いた英文で見られたよくある文法・語法の間違いを提示し、正しく直すよう指示した。まずは個人で取り組み、そしてペアで答えを確認、その後筆者が解答を板書し解説を行った。その後、「再生可能エネルギーのデメリットとして考えられる3つ目の理由を40語程度で説明する」課題6に20分程度で取り組んだ。時間に余裕がある生徒と、自宅で取り組みたい生徒向けに「カナダにいる友人にメールの返信を書く」という追加課題(課題7)を提示した。生徒が個別でライティング課題に取り組んでいる間、筆者は机間巡視を行い生徒からの質問に答えたり、筆がなかなか進まない生徒に声かけをするなどした。課題6の模範解答を示し、生徒が自分の英文を添削した後、生徒は書いた英文と振り返りシートを筆者に提出した。

### 3.5.3 第3回講義：6月9日(資料3)

第3回講義では、第1回・第2回講義に参加した生徒と初参加の生徒が混在していたため、参加経験のある生徒と初参加の生徒が同じグループになるようにした(1グループ3名)。筆者の簡単な自己紹介、グループ内での簡単な自己紹介の後に、本日の目標(大学入試英作文における出題傾向・割合を知る、パラグラフ構成を理解し英作文に応用する、英作



文における自分の強みと弱点を把握する)を共有した。次にそれまでの復習を兼ねて、第1・2回の講義内容(FREE、ブレインストーミング、抽象→具体)を参加経験のある生徒から初参加の生徒へ説明するよう指示した。その後、大学入試自由英作文のジャンル分析(塩川, 2018)の一部を紹介した。意見文、個人的感想、考察、その他(説明、描写、物語創作、手順など)のジャンルがどのくらいの割合で出題されているか個人で予想した後、グループ内で意見交換、その後全員に各割合を伝えた。次に、「ハンバーガー理論」としてパラグラフの構成(主張:トピックセンテンス、理由と説明:サポーティングセンテンス、結論:コンクルーディングセンテンス)について説明を行った後、練習1「2つの言語を話すのでは不十分であると言われているが、日本人はもう1言語学ぶとしたら何語を学ぶべきか」についてパラグラフの構成をメモの形で書くよう指示した。次に、「ニュースを知るのに自分がもっとも好きなメディアは何か、30〜40語で書く」という課題に20分程度で取り組んだ。時間に余裕のある生徒、より多くの課題に取り組みたい生徒向けに「健康的な生活を送るために自分が何をしているか30〜40語で書く」という追加課題を設定した。練習1の模範解答を示し、生徒は自分の英文を添削した後、書いた英文と振り返りシートを筆者に提出した。

#### 3.5.4 第4回講義:6月16日(資料4)

第1・2回講義と同様、生徒に番号を振ってなるべくそれまで話したことのない者同士で着席し、ペアを組むよう指示した。筆者とペア同士の簡単な自己紹介後、本日の目標(日本語のエッセイと英語のエッセイの違いを知り英語のエッセイの特徴を応用できる、パラグラフ構成を理解し、前回よりやや長い英作文を書く際に応用できる、英作文における自分の強みと弱点を把握する)を共有した。そして前回の内容(パラグラフ構成とハンバーガー理論)を復習し、前回の練習1(2つの言語を話すのでは不十分であると言われているが、日本人はもう1言語学ぶとしたら何語を学ぶべきか)について、主張→理由→結論の順に生徒同士が英語で意見交換を行った。次に、日本語のエッセイと英語のエッセイの違い(大井, 2006)の一部を紹介した。生徒は2種類のエッセイA・Bを読んでそれぞれの論調・内容・構成・文体的特徴について考えた後、どちらが日本人またはアメリカ人が書いたエッセイであるかを推測した。次に「これまで学んできたことの中でもっとも大切だと思うことを50〜60語で書く」という課題1に20分程度で取り組んだ。その後、ペアでエッセイを交換してピア・フィードバック活動を行った。はじめに内容面に関するフィードバック(相手のエッセイの良いところに“☺(smile)”, よくわからないところに“?”, もっと説明してほしいところに“more”と記入する)を行うよう指示した。次に、形式面についてのフィードバック(語彙・文法・語法上の誤りがあれば、パートナーが訂正する)を行うよう伝えた。最後に、生徒は相手のエッセイにコメントと、自分(コメント記入者)の名前を書いた。お互いの英作文を返却し、コメントを読んだ上で相手に質問がある場合は尋ね、コメント記入者はコメン

トについて説明を行った。この日も追加課題を2つ（課題2：「高校生がアルバイトをすることに賛成か反対か」、課題3：「本を出版するとしたら何について書くか」）提示した。生徒は書いた英文と振り返りシートを筆者に提出した。

### 3.5.5 第5回講義：6月30日（資料5）

第1・2・4回講義と同様、なるべく面識のない者同士で着席し、ペアを組むよう指示した。筆者とペア同士の簡単な自己紹介後、本日の目標（よくある間違いについて学び英文を正確に書けるようにする、つなぎ言葉のバリエーションを増やし使えるようにする、パラグラフ構成を理解し前回よりやや長い英作文を書く際に応用できる、英作文における自分の強みと弱点を把握する）を共有した。第4回講義のエッセイでよく見られた誤りをプリントに提示し、まずは個人で正しく訂正するよう指示した。ペアで答えを確認した後、筆者が全体に解説を行った。また、正確さを高めるための具体的方法（見直し、辞書・参考書の活用、模範解答を読み真似する、お勧めアプリの紹介）について伝えた。次に、9種類のつなぎ言葉（接続詞）を提示し、ペアでつなぎ言葉を1つずつ繋ぎながら意見を出し合うスピーキング活動を行った。トピックは第4回講義で扱った課題2「高校生がアルバイトをすることに賛成か反対か」とした。その後、「人は来ている服によって言動が変化すると思うか、あなたの考えを100語程度の英語で説明しなさい」という課題に取り組んだ。それまでよりも多くの語数が求められていたので、30分程度時間を設けた。この日は時間に若干余裕があったため、エッセイをパートナーに読み聞かせてからピア・フィードバック活動を行い、さらにペアを変えてもう1回ピア・フィードバック活動を行った。追加課題は「自分の通う高校の隣にアミューズメントパークができることに賛成か反対か」というトピックとした。生徒は書いた英文と振り返りシートを筆者に提出した。講義後も課題に取り組み続ける生徒や、筆者に質問をする生徒が数人いた。

### 3.5.6 第6回講義：7月14日（資料6）

第6回講義では第3回講義と同様に参加経験のある生徒と初参加の生徒が同じグループになるよう、3名のグループを2つ、4名のグループを2つ編成した。筆者とグループメンバー間の簡単な自己紹介の後、本日の目標（5回の講義の総復習をし、英作文のポイントを説明できる、「譲歩→逆説→主張」を理解し使うことができる、パラグラフ構成を理解してやや長い英作文を書く際に応用できる、英作文における自分の強みと弱点を把握する）を共有した。第6回目に初めて参加する生徒もいたため、これまでの総復習（3つのコツ、ジャンル分析、ハンバーガー理論、日英のエッセイの違い、つなぎ言葉）を行った。次に第5回のエッセイから見られた誤りを、個人で考え、ペアで答えを確認した後、筆者が全体に向けて解説を行った。次に、スピーキング活動として「課題1：そろばんは時代遅れだという意見に賛成か反対か」というトピックについてグループで意見交換を行った。その後、同じ話題（課



題1) について100語程度で書くことに取り組んだ。この回ではエッセイの語数が100語程度と多かったため、「譲歩→逆説→主張」のパターンを取り入れることをコツとして勧めた。エッセイが完成した頃、第4・5回と同様にグループ内でエッセイを交換してピア・フィードバック活動を行った。追加課題は、「課題2：日本社会においてコンビニエンスストアの影響は肯定的か否定的か」というものとした。生徒は講義の時間内に完成した課題と振り返りシートを筆者に提出した。

### 3.6 コミュニケーション活動例

徳江（2007）はジャンル・アプローチを高等学校ライティングに生かす指導として、海外の生徒との文通や生徒間で英作文を読み合うなど、実際にコミュニケーションできるコンテキストを設定している。また達川（2002）によると、論理的思考力・表現力を育てる指導とは「一貫性」を意識化させることであり、「一貫性」とはコミュニケーションの参加者が共有し推論できる“shared information”であるとしている。生徒たちが実際に対話、言い換えれば「真のコミュニケーション活動」を通して情報を共有し、意見交換することで思考力・表現力の訓練になると考えた。そのため、紙面上の入試問題に生徒が個々で取り組み、答え合わせ・解説を行う「知識伝達型」の授業ではなく、他者と意見交換を行う活動を行ってから（また行いながら）ライティングを行う活動を取り入れた。以下に活動例を三つ示す。

(1) トピックを生徒の身近な例に置き換える。

【例題】 空欄に適切なせりふを補い、会話を完成しなさい。(Simple Skills for English Writing, p. 58)

A: Excuse me. Do you know any good restaurants near here?

B: Well, actually I know many good ones around here.

(1) \_\_\_\_\_:

A: Let's see... I'd like to eat delicious gyoza here in Utsunomiya.

B: OK. I know a good restaurant.

A: \_\_\_\_\_:

B: Well, it's a little far. It takes about 20 minutes on foot.

【本実践で用いた活動】

A: Excuse me. Do you know any good restaurants or cake shops near here?

B: Well, actually I know many good ones around here.

(1) \_\_\_\_\_:

A: Let's see... I'd like to eat delicious (Italian / Chinese / Indian / Japanese) foods here in ○○ city.

B: OK. I know a good restaurant.

A: .....

B: Well, it's (near / far / a little far / too far). It takes about ( ) minutes on foot.

教科書の例は、「Aがレストランを探している」が、対象生徒が通う高校近くに地元で有名なケーキ屋があるため、「Aがレストランかケーキ屋を探している」と変更した。また、教科書ではBのせりふを聞いた後「Aが宇都宮で餃子が食べたい」と言っているが、「Aがこの〇〇市で美味しいイタリアン・中華・インディアン料理・和食が食べたい」という設定とした。

(2) 「つなぎ言葉」を使ってあるトピックについて意見交換を行う。教師はトピックを生徒の身近な例に置き換える。また、生徒がつなぎ言葉を選ぶ。

**問題7** 高校生がアルバイト (part-time job) をすることについて、あなたは賛成ですか、あるいは反対ですか。賛否を明確にして、理由とともに、自分の意見を60語から80語までの英語で述べなさい。(Simple Skills for English Writing, p. 65)

#### 【本実践で用いた活動】

ペアで「つなぎ言葉」をつなぎながら、意見を出し合おう。(2分間) トピック：高校生がアルバイト (part-time job) をすることについて、あなたは賛成ですか、あるいは反対ですか。

(例) A: I think high school students should have a part-time job. (Aが立場を決める)

B: (Bが接続詞を選び、それに合った意見を述べる) ... because they can learn to communicate with others.

A: (Aが接続詞を選び、それに合った意見を述べる) In addition, they can learn how to use polite language to others.

#### (3) 読み聞かせ+ピア・フィードバック活動

英作文を書き終えたら、自分の書いたエッセイをパートナーに読み聞かせる。読み手は聞き手が理解できるような速さで相手に伝えるために読むように、聞き手は文字なしでどのくらい理解できるか集中して聞くことに気をつける。その後、エッセイをパートナーと交換して1回目は内容面、2回目は形式面に関してフィードバックを行う。最後に、パートナーがコメントを書き、コメント記入者の名前を書く。お互いに英作文を返却し、コメントを読んで相手に質問がある場合は尋ね、コメント記入者は説明を行う。

## 4. 実践結果

### 4.1 調査方法

第5回目の講座で19名の生徒から提出されたエッセイ課題を誤答分析の対象とした。100語程度と比較的多めの語数の英作文であること、提出されたエッセイの数が他の課題に比べて多かったため、この課題を分析対象として選択した。また、実践期間終了後1ヶ月が経過した2018年8月末に、受講者52名にアンケート調査を実施した。アンケートは無記名とし、回答内容と個人情報は研究目的以外で使用する事は無いことを質問紙に記載した。選択式の質問項目は1) 講座出席回数、2) 参加した日時、3) 英作文指導を本実践以前に受けた経験、4) 3) の受講時期、5) 英作文の力をつけるために現在していること、6) 英語で書くことは好きかそうでないか、7) 英語で書くことは得意か苦手か、8) 講座で役に立ったと思うこと、9) 講座後自分が書く英作文の量の変化、10) 講座後自分が書く英作文の正確さの変化、の10項目である。記述式の質問は、11) この講座の良かった点、12) この講座の改善点・要望、13) その他(感想等)の3つである。

### 4.2 英作文の誤答分析

第5回目の講座で19名の生徒が取り組んだ課題の内容は「Simple Skills for English Writing (p. 68)」にある、「人は着ている服によって言動が変化すると思うか。あなたの考えを100語程度の英語で説明しなさい」という愛知教育大学の入試過去問題である。一人一人の英作文に見られる誤答を収集し、分類した。

表2. 英作文の誤答分析

種類	誤答の例	誤答数	誤答総数(72)に占める割合
スペル	war/ were (wear), carefull, corect, brack, conclusion	18	25.0%
語法	cloth is rough (服装がラフ)、around people (周囲の人々)、move activity (actively)、movement is slowly (slow)	17	23.6%
分詞	feel relax (feel relaxed), dying people (dead people)	6	8.3%
単数 複数	an usual cloth (洋服“clothes”), others' eye(s) なし)、 For these reason(s) なし)	6	8.3%
前置詞	careful to 名詞 (careful of)、different with (different from)	5	6.9%
大文字 小文字	文中での People...、文中での If...、文中での The... halloween (Halloween)	5	6.9%
接続詞	文頭の And...、But...、Because....	4	5.6%
3 単現	our movement change(s なし)、it have (it has)、there is three	3	4.2%
動詞	can't getting、want to getting、accustomed to wear	3	4.2%
冠詞	(the なし) school uniform、wear (a なし) school uniform	2	2.8%
その他	疑問文に? なし、... is wear (正しくは ... is worn)、 関係代名詞 which の使用 (正しくは関係副詞 when)	3	4.2%

### 4.3 アンケート調査（選択式）

問1から、約4割の生徒が講座に1回のみ参加したことが分かる。アンケート記述結果から、部活動の公式戦が土曜日や休日に開催されたため、参加できなかった生徒もいたようである。そのため各講座の参加人数にはばらつきが見られた。問3によると、本実践以前に英作文指導を受けた経験は、「あり」が8名、「なし」が44名で、8割以上がこれまでに英作文指導を受けた経験が無いと回答した。また、英作文は実践先の高校の授業でも多少行われていると聞いていたが、英作文に特化した授業ではないためか「高校の授業で英作文指導を受けた」という認識が生徒側にないことが分かる。英作文の力をつけるためにしている事としては、「学校の授業・補習」が約8割、「赤本・過去問」が約3割であり（表4・問5）、生徒のライティング力は高校の教育活動によるところがかなり大きいことがわかる。英語で書くことは、約7割の生徒が好き・とても好きであるが、得意か苦手に関しては約半数が「どちらとも言えない」、約3割が「苦手・とても苦手」と回答している。英語で書くことは好きではあるが、自信はあまり無い様子うかがえる。

表3. 講座参加回数・参加日時（問1、2）

問1	講座参加回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回
	人数	22	8	7	9	3	3
問2	参加日時	4月28日	5月3日	6月9日	6月16日	6月30日	7月14日
	出席者数	15	26	26	26	21	14

表4. 英作文指導受講経験（問3～5：問4は複数回答可）

問3	受講経験	あり	なし						
	人数	8	44						
問4	過去時期・場所	小学校	中学校	高校授業 (コミュ英)	高校授業 (英語表現)	スピーチ コンテスト	英会話 学校	塾	留学先
	人数	2	2	3	3	1	3	2	1
問5	英作文力のためにしている事	学校の授業	学校の補習	英文メール	ラジオ講座	英会話学校			
		23 (44.2%)	18 (34.6%)	2 (3.8%)	0 (0%)	4 (7.7%)			
		家庭教師	塾	赤本・過去問	その他	特になし			
		0 (0%)	8 (15.4%)	16 (30.8%)	8 (15.4%)	4 (7.7%)			

表 5. 問 6、7 (問 7 は 1 名が無回答)

問 6	英語で書くことが好きか	5 (とても好き)	4 (好き)	3 (どちらでもない)	2 (好きでない)	1 (全く好きでない)	平均値	標準偏差
	人数 (割合)	8 (15.4%)	27 (51.9%)	14 (26.9%)	3 (5.8%)	0 (0%)	3.77	9.56
問 7	英語で書くことが得意か	5 (とても得意)	4 (得意)	3 (どちらでもない)	2 (苦手)	1 (とても苦手)	平均値	標準偏差
	人数 (割合)	2 (3.9%)	5 (9.8%)	29 (56.9%)	14 (27.5%)	1 (2%)	2.86	10.46

表 6. 講座で役に立った内容 (問 8)

英作文の書き方	単語の使い方	文法の使い方	物事を多面的に考える	他の受講者と意見交換	入試問題ジャンル分析	日英のエッセイの違い
46 (88.5%)	8 (15.4%)	12 (23.1%)	17 (32.7%)	22 (42.3%)	12 (23.1%)	12 (23.1%)
他の生徒の英作文を読む	他の生徒の英作文にコメントを書く	講師の添削	講師のコメント	講座の振り返り	その他	
10 (19.2%)	4 (7.7%)	18 (34.6%)	9 (17.3%)	0 (0%)	0 (0%)	

表 7. 講座後自分が書ける英作文の量・正確さの変化 (問 9、10)

量	5 (かなり増)	4 (やや増)	3 (変化なし)	2 (やや減)	1 (かなり減)	わからない
	9 (17.3%)	33 (63.5%)	6 (11.5%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (7.7%)
正確さ	5 (かなり高まった)	4 (やや高まった)	3 (変化なし)	2 (やや低くなった)	1 (低くなった)	わからない
	5 (9.8%)	32 (62.7%)	9 (17.6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (9.8%)

#### 4.4 アンケート調査 (記述回答)

アンケートの記述回答の類似する回答をまとめ、主なものを抜粋する。( ) 内の数字は回答者数である。

問 11 講座の良かった点

- ・英作文の書き方の基礎を学ぶことができた (14)
- ・他の受講生と意見交換ができた点。(13)
- ・英作文のポイントが分かりやすかった点。(7)
- ・普段英作文を書く機会がなかったので有意義な時間だった。(6)
- ・先生に添削してもらえた点。(5)
- ・楽しく学ぶことができた点。(5)
- ・先生が優しくった。／アットホームな雰囲気で質問しやすい点。(4)

## 問12 講座の改善点・要望

- ・ なし。(21)
- ・ もっと多く授業を受けたい／英語で書きたい・話したい。(各1)
- ・ 授業内で作文する時間がもっとほしい。(2)
- ・ グループに仲の良い人がいる方が話しやすい。(2)

## 問13 その他

- ・ 他の人との交流や話し合いが楽しかった。(8)
- ・ また受講したいです。(6)
- ・ 苦手意識・抵抗感が減り自分にもできると思えるようになった。(6)
- ・ 貴重な機会／有意義な時間だった。(5)
- ・ 分かりやすくてよかった。(5)
- ・ 講座を受けてから英作文が書きやすくなった (4)
- ・ 英作文への関心が高まり良い刺激になった。(3)
- ・ 練習量を増やしてこれからも頑張りたい。(3)

## 4.5 考察

英作文の誤答分析から、スペルミスと語法（類似した意味を持つ語の選択）に最も誤りが多いことが分かった。まとまった語数の英文を書くためスペルミスや語法の誤りは避けられないものであるが、これはおそらく高校の通常の英語授業では100語程度の英作文を書く機会が少ないこと、また意味のあるコンテキストの中で自分の意図に適した語彙を選択し、使用する機会（絶対量）が不足しているためだと推測される。また、文頭に and, but, so, because などの接続詞を用いないことや、大文字・小文字の使用区別は「説明がされていない・または習得が遅かった項目」である（白畑, 2015）と考えられる。冠詞・3単元-s、前置詞の誤りは、「日本人英語学習者にとって習得が困難な文法項目」である（白畑, 2015）ため、誤りが一定数見られた。分詞の形容詞的用法は、「意味ある文脈の中で繰り返し練習すべき項目」（白畑, 2015）とされており、教師はこれらを説明し生徒に問題演習を解かせるだけでなく、生徒にこれらの文法項目を有意義なスピーキング活動やライティングタスク内で使用させるべきである。内容面では、ほぼ全ての生徒が設問の問いに適切に答えており、例も2つ以上示していた。形式面では、1名を除き全員がパラグラフの構成（主張文—支持文—結論文）に従って書くことができていた。以上の結果から、講座で学んだパラグラフライティングの基礎知識が応用できていると考えられる。文法・語法における誤りは生徒によって量・種類とにもばらつきが見られた。書き直す機会を増やす、または数回のみの指導ではなく、継続的に明示的指導を行うと正確さがより高まるであろう。



選択式アンケート結果からは、約 8 割の生徒が講座後「産出する英文の量が増えた」、約 7 割が「正確さが高まった」と回答した。これは、講座の有益な点として挙げられた「英作文の基礎知識」、「講師のエッセイ添削」がライティング力向上に寄与したと考えられる。また、英作文の知識そのものだけでなく、他者との対話や英作文を書く過程で「物事を考えること」、すなわち思考・判断・表現することも有益であると生徒たちが感じたことが明らかになった。社会的交流が思考力に役立つことは、「ペアの子と話し合うことでいろんな考え方を発見できた」「他の人の意見を聞いて『おおーっ！』と思うことがたくさんあり、自分にはない意見を得られる」という記述回答にも表れている。また、「他の人との交流・話し合いが楽しかった」「友達や先生からのコメントが楽しみだった」というアンケート記述から、他者との（形式的ではない）「真のコミュニケーション」を多くの生徒が楽しんでいたことも分かった。加えて、「英作文を通して改めて様々なことを考えさせられ、新しいことに気づかされて楽しい」というコメントからは、他者と対話し、英文に向き合い「自分自身と対話」する過程で、思考そのものを楽しみ、自身の思考力向上に気づくことができたと考えられる。

## 5. まとめと今後の課題

今回の実践の誤答分析は一種類のみの英作文を分析対象としたため、トピックによって算出される誤答が偏ったことが考えられる。今後は実践前と実践後にテストを行うことや、同一の生徒が実践前・実践後にエッセイを書いて比較を行うなど、同一条件下で分析を行う必要がある。また別の日本人教員やネイティブスピーカーにも誤答分析を依頼するなどすれば、新たな示唆を得ることができたかもしれない。

本実践のように大学教員が公立高校を単発ではなく一定期間訪れることは、稀なケースである。しかし、高校教員が大学入試指導を一方的な講義形式ではなく、コミュニケーションにすることは可能であると考えられる。例えば、本実践のように短時間でもペアワーク、グループワーク、ラウンドロビンや Think-Pair-Share などの協同学習の技法を取り入れることや、プロセスアプローチを活かしたライティング授業を行うこともできる。また、教科書のトピックを勤務校のコンテキストや生徒の経験と関連付けることや、生徒が英語を使用して真のコミュニケーション活動を行うコンテキストを設定することも充分可能である。そのような視点を持って教材研究を行い、教科書内のタスクを修正することを提案したい。今後は、入試合格後に大学が課すエッセイ課題にプロセスアプローチを活用することや、オンラインにおけるプロセスライティングの指導方法、ライティング授業と他の授業・他科目との連携など、様々な場面や形態でのライティング授業の可能性も探っていきたい。

## 引用文献

- Andrews, R. (2016). Process Writing and Its Relevance to Japanese High School Students. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Focus on the learner*. Tokyo: JALT.
- ベネッセ教育総合研究所 (2016). 『中高の英語指導に関する実態調査2015ダイジェスト版』東京：(株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所.
- 桂邦彦 (2016). 『Simple Skills for English Writing』京都：文英堂.
- Kobayakawa, M. (2011). Analyzing writing tasks in Japanese high school English textbooks: English I, II, and Writing. *JALT Journal*, 33, 6–32.
- Kurihara, N. (2014). Adoption of the process-oriented writing approach in a Japanese high school classroom. *The Language Teacher*, 38(5), 31–36.
- 文部科学省 (2018). 『高等学校学習指導要領解説外国語編英語編』東京：大蔵省印刷局.
- 文部科学省 (2018). 『高等学校学習指導要領解説総則編』東京：大蔵省印刷局.
- 成田あゆみ (2018). 『自由英作文編 英作文のトレーニング 改訂版』東京：Z会
- 大井恭子 (2006). 「第5章 クリティカルにエッセイを書く」鈴木健・大井恭子・竹前文夫 (編) 『クリティカル・シンキングと教育—日本の教育を再構築する—』(100–136頁). 京都：世界思想社.
- 大井恭子・田畑光義・松井孝志 (2008). 『パラグラフ・ライティング指導入門 中高での効果的なライティング指導のために』東京：大修館書店.
- 太田垣正義 (1990). 『落ちこぼれのない英語教育—誤答分析の視点から—』東京：南雲堂.
- 塩川春彦 (2018). 「大学入試自由英作文論題のジャンル分析—過去17年間の国公立大学の入試問題データに基づいて—」『中部英語教育学会紀要』第47巻, 49–56.
- 白畑知彦 (2015). 『英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から』東京：大修館書店.
- 達川奎三 (2002). 「英語教育における思考力の伸長と表現力の育成のあり方—中学校・高等学校の英語授業の改善と充実に向けて—」『広島外国語教育研究』15号, 1–19.
- 徳江武 (2007). 「ジャンル・アプローチを高等学校ライティングに生かす指導法—形成的評価, カウンセリング, コーチング, LLを用いて—」『EIKEN BULLETIN 英検研究助成報告書』第19回研究助成B. 実践部門・報告VII.

## 資料 1

## 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.4.28.

3年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

## Today's Goals: 今日の目標

- ☐ 対話文・説明文を書くコツを理解する
- ☐ 対話文・説明文を書くコツを使うことができる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握できる。

例題 1 : 空欄に適切なセリフを補い、会話を完成しなさい。

A: Excuse me. Do you know any good restaurants near here?

B: Well, actually I know many good ones around here.

(1) \_\_\_\_\_.

A: Let's see... I'd love to eat delicious sweets here in Tokai-city.

B: OK. I know a good restaurant.

A: (2) \_\_\_\_\_.

B: Well, it's a little far. It takes about 20 minutes on foot.

## ★コツ① 対話文: “FREE”

F=

R=

E=

E=

上記のコツを踏まえて、もう一度(1)と(2)を書いてみましょう。

(1) \_\_\_\_\_.

(2) \_\_\_\_\_.

(模範解答もメモしておきましょう。)

---



---



---



例題2：「うちわ」について20語程度の英語で説明しなさい。

---

( ) 語

★コツ② ブレインストーミングする。

★コツ③ 説明文：( ) ⇔ ( )

Brainstorming

うちわ



上記のコツを踏まえて、もう一度例題2を書いてみましょう。

---

( ) 語

クラスメートの例や、模範解答もメモしておきましょう。良いと思った表現はどんどん覚えていきましょう。

## 資料 2

## 第2回 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.5.3.

3年( )組( )番 氏名( )

## Today's Goals: 今日の目標

- ☐ 対話文・説明文を書くコツを理解し、使うことができる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握する。
- ☐ 「よくある間違い」を理解し、正確な英文を書くことができる。

★前回の復習★ 例題1: 空欄に適切なセリフを補い、会話を完成しなさい。

A: Excuse me. Do you know any good restaurants near here?

B: Well, actually I know many good ones around here.

(1) \_\_\_\_\_.

A: Let's see... I'd love to eat delicious sweets here in Tokai-city.

B: OK. I know a good restaurant.

A: (2) \_\_\_\_\_.

B: Well, it's a little far. It takes about 20 minutes on foot.

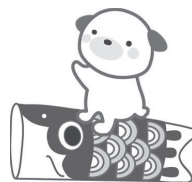
★コツ① 対話文: "FREE"

F=

R=

E=

E=



★前回の復習★ 例題2: 「うちわ」について20語程度の英語で説明しなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ ( ) 語

★コツ② ブレインストーミングする。

★コツ③ 説明文: ( ) ⇨ ( )

## Brainstorming



## ☆ 前回の Common Error (よくある間違い)

以下の4つの英文には、間違いがあります。正しい英文に直しましょう。

1. I think studying abroad needn't for me.

→

2. I might go to Australia because it is safety.

→

3. I might go America because I can eat delicious food.

→

4. It's so dangerous for us to go to abroad.

→

p. 60 ⑥ ★解答のコツ★

①40語程度なので、36～44語におさめる。(＝3文か4文で。)

②問題文の英語を再利用 (RECYCLE)する。

③パラグラフ構造：( ) → ( )。

④図1から、「 」についてまとめる。(例：太陽エネルギーと石炭エネルギーにかかるコストを比較する、コストがかかると私たちにどんな影響が出るかについて書く。)

---



---



---



---

模範解答・メモ

---



---



p. 60 7 ★ 解答のコツ ★

- ① 問題文（カナダの友達、Terry からのメール）の流れに沿う。（FLOW を理解）
- ② 1 文目（流れに沿って返事）→ 日本の高校の現状（抽象）→ 自分の具体例
- ③ 最終文：カナダの高校と自分の状況を比べて、感想を述べる。

---

---

---

---

模範解答・メモ

---

---



資料 3

第3回 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.6.9.

3年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

Today's Goals: 今日の目標

- ☐ 大学入試英作文における英作文の出題傾向と割合を知り、自分の言葉で説明できる。
- ☐ パラグラフの構成を理解し、英作文（意見文・感想文）を書く際に応用できる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握する。



☆ 前々回と前回の復習 ☆

★ コツ① 対話文：“FREE”

F= R= E= E=

★ コツ② 自由な発想でアイデアを出し合う技法＝（ ）

★ コツ③ 説明文：（ ）⇒（ ）

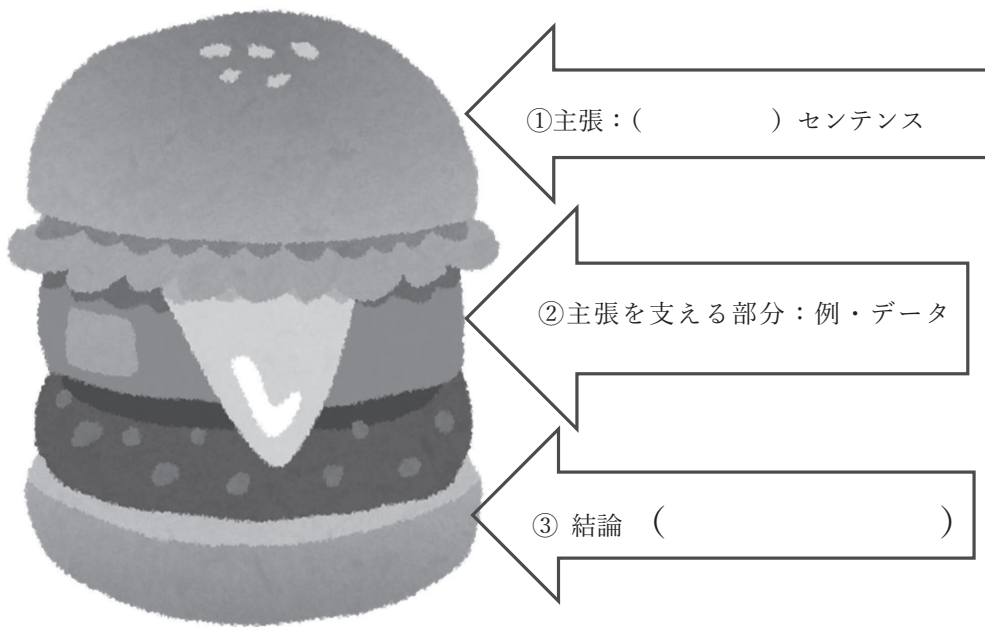
1. 大学入試自由英作文のジャンル分析（塩川 2018）

2000-2016 年に出題された国公立大学の 自由英作文 1584 題 を分析。

種類	定義	例	割合
意見文 (Expositions)	…賛成か反対か、立場を明確にして論述。/ある人物や集団がどう行動すべきか論述。	日本人は和食をもっと食べるべきか。(2016 広島大)	( ) %
個人的感想 (Personal Reflections)	ある事についての好みや価値観について書く。自分の実体験、仮の想定や空想について書く。	尊敬する歴史上人物について理由を含めて説明しなさい。(2011 一橋大)	( ) %
考察 (Discussion)	客観的に利点・欠点・特徴な度を論述。(賛成か反対など、立場を取らない。)	大学に進学する長所について具体的に英語で論じなさい。(2013 愛媛大)	( ) %
その他 (説明、描写、物語創作、手順など)	出来事についての説明。ある言葉の説明。物語を自分で作流。何かの手順を説明。	日本のポップカルチャーが日本以外でも人気になった要因を2つ挙げなさい。(2014 鹿児島大) 救急車、辞書、自動販売機、動物園を英語で説明しなさい。(2002 筑波大)	( ) %

## 2. パラグラフの構成とは：ハンバーガー理論

(1) ハンバーガーの定義は？ どのように作られていますか？



**練習1** p. 62 Some people say that these days speaking two languages, for example Japanese and English, is not enough and that we should learn a second foreign language. What other language do you think young Japanese people should learn?

(1) 「ハンバーガー理論」を使って (日本語でいいので) メモしてみましょう。→ペアでシェア

①主張

②例・データ

③結論

**練習1** p. 62 Some people say that these days speaking two languages, for example Japanese and English, is not enough and that we should learn a second foreign language. What other language do you think young Japanese people should learn? (80語程度で書く。)

★解答のコツ★ ①主張 (トピックセンテンス) → ②サポートを2つ → ③結論文

(2) 英語で意見交換してみよう。

**パートナーの意見をメモ**

①主張

②例・データ

③結論

(3) 模範解答(教科書62ページ)を読んでもみよう。

**コツをメモ**

①主張

②例・データ

③結論

(4) 教科書62ページを読み、大事だと思ったところにアンダーラインしよう。→ パートナーに(なるべく自分の言葉に直して)説明しよう。

**課題1** **1** 教科書 p.64

In modern society, news is available in a number of media. Which one do you like best? Give two reasons why you prefer this particular medium to the others. Write one or more sentences in English. (30-40 words). (東京農工大)

★ 解答のコツ: ①主張(1文) … → 理由(2文) 問題文の英語を活用する!

★ 自分の書きやすいメディア(新聞、テレビ、インターネット、ラジオ、ポッドキャストなど)を選ぶ。

**課題2** **2** 教科書 p.64

What can you do to lead a healthy life? In 30-40 words, answer the question with reasons for your opinion. (島根大)

★ 解答のコツ: ①主張(1文) … → 理由(2文) 字数制限から理由は2つが適切。

★ 問題文の英語を活用する!

★ 運動、食事、睡眠など、健康問題で日常よく言われていることを1つ選んで書く。

**模範解答・メモ**



資料 4

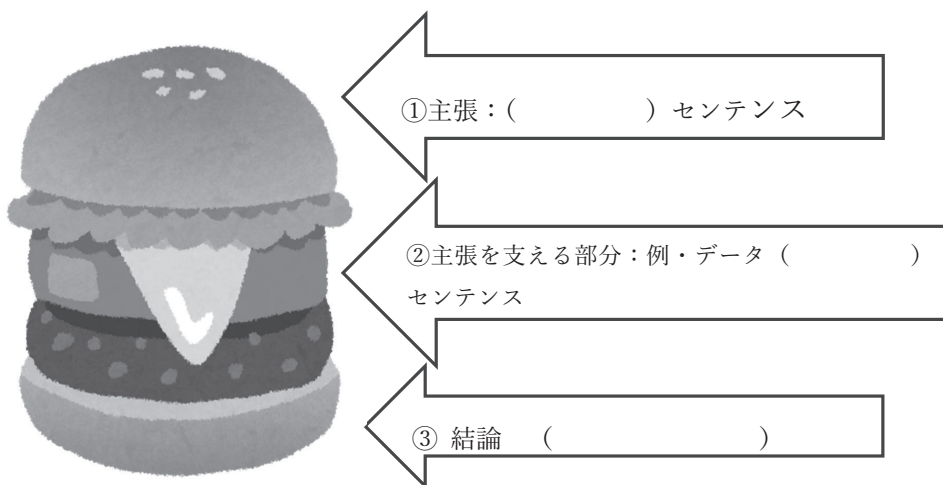
第4回 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.6.16.

3年( )組( )番 氏名( )

Today's Goals: 今日の目標

- ☐ 日本語のエッセイと英語のエッセイの違いを知り、英語のエッセイの特徴を応用できる。
- ☐ パラグラフの構成を理解し、前回よりもやや長い英作文（意見文・感想文）を書く際に応用できる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握する。

☆ 前回の復習 ☆ パラグラフの構成とは：ハンバーガー理論



練習 1

p. 62 Some people say that these days speaking two languages, for example Japanese and English, is not enough and that we should learn a second foreign language. What other language do you think young Japanese people should learn? (80語程度で書く。)

★解答のコツ★ ①主張（トピックセンテンス）→ ②サポートを2つ → ③結論文  
英語で意見交換してみよう。

## 2. 日本語のエッセイと英語のエッセイの違い（大井 2008）

文章 A と文章 B を読み、その比較をまとめた以下の表に当てはまる語を選んで書きましょう。

	文章 A	文章 B
論調	①（ ）的	②（ ）的
内容	③（ ）な話題	④（ ）な話題
構成	⑤（ ）の羅列	問題⑥（ ）型
文体的特徴	一人称体、口語表現（don't, isn't など縮約形を多用、and, but, so などの等位接続詞を文頭に多用）	三人称体や無生物主語の多様、If・Why, How の文型で表され流ように論理的な言い回し
解釈の責任（書き手 or 読み手）	⑦（ ）が責任を負う	⑧（ ）が責任を負う

**選択肢**

身近

解決

書き手

エピソード

客観

抽象的

読み手

主観

## 3. 練習

**課題1** ⑥ 教科書 p.65

これまで学校や学校以外の場で学んできたことの中で、あなたが最も大切だと思うことは何か。また、それはなぜか。50～60語の英語で答えよ。ただし、英語に関すること以外について述べること。（東京大）

★ 解答のコツ：「主張＋サポート＋結論」

★ 問題文の日本語を英語にする。「私が学んだ最も大切なことは」を第一文の「主張に入れる。

★ 自分の書きやすい話題を選ぶ。全て事実である必要はないので、書きやすいものに一部変更も可。

---



---



---



---

（ ）語

**課題2** ⑦ 教科書 p.65

高校生のアルバイトを取り巻く状況は、国や文化によって異なります。日本では、生徒のアルバイトを減速として認めていない高校が比較的多いようですが、他の国々においては、生徒に社会経験を積ませるために、アルバイトが奨励されている場合があります。高校生がアルバイト（part-time job）をすることについて、あなたは賛成ですか、あるいは反対ですか。賛否を明確にして、理由と共に、自分の意見を60語から80語までの英語で述べなさい。（名古屋工業大）

★ 解答のコツ：「一般論 ＋ 主張 ＋ サポート（1つか2つ） ＋ 結論」（一般論：「高校では生徒のアルバイトの是非について色々と議論してきた」など、日本の現状を書くとも良い。）

★ 日常生活や自分の経験をもとに書き進めるとよい。



---

---

---

---

模範解答・メモ



課題3

8

 教科書 p.66

次の質問に、60語以上80語以下の英文で答えなさい。

If you could publish a book on any topic, what would you write about? Give your book a title, and briefly describe what you would write about. (北九州市立大)

★ 解答のコツ:「主張 + サポート」(第一文は問題文を活用するとよい。)

★ 必要に応じて仮定法を用いる。(現実を表すのには現在形を使い、仮定法との区別をはっきりさせる。)

---

---

---

---

模範解答・メモ



## 資料5

## 第5回 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.6.30.

3年( )組( )番 氏名( )

## Today's Goals: 今日の目標

- ☐ よくある間違いについて学び、英文を正確に書けるようにする。
- ☐ つなぎ言葉のバリエーションを増やし、英作文で使えるようにする。
- ☐ パラグラフの構成を理解し、前回よりもやや長い英作文（意見文・感想文）を書く際に応用できる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握する。

## ☆ 前回の essay から ☆

① Common mistakes : それぞれの英文を正しく書き直しましょう。

1. I agree with that high school students do part-time jobs.

→ \_\_\_\_\_

2. They can get social experiences after graduating high school.

→ \_\_\_\_\_

3. Second, I can get strong mental.

→ \_\_\_\_\_

4. High school students have not enough experiences.

→ \_\_\_\_\_

5. First, high school students have many things to do. For example, study, homework, and club.

→ \_\_\_\_\_

6. The book's title is "Good at nature."

→ \_\_\_\_\_

7. It may become more easier.

→ \_\_\_\_\_

8. In fact, I had an experience of working part-time when I was a junior high school student. I knew working was very hard.

→ \_\_\_\_\_

正確さを高めるには：

(1) FREE の"E" (Edit) 見直しをする。

(2) 辞書や参考書で確認。( ) を読む・真似する。「 」の無料アプリオススメ。

## 2 つなぎ言葉の引き出しを増やそう！

1 理由	b , s , a , b e of, d to, That's b ~
2 追加	and, al , Another, F , M , In a
3 類似点	Si , Li , Also, like, alike, both A and B, similar to, the same as, not only A but also B, c to
4 相違点	On the other h , In c , However, Although, W , but, differ from, whereas, even th , yet, unlike
5 例外・代案	although, instead, except, even though, ot , unless, while, yet
6 言い換え	In fact, as a matter of fact, Th is, In o w
7 譲歩	even though, I agree that....., but..... , while it may be t that...
8 順番	First, Second, After that, Before, Now, Next, Finally
9 結論	Thus, In short, In c , In s , To conclude, To summarize, as a re , as a consequence, therefore, thus, for these reasons, consequently

### 3 ペアでつなぎ言葉を繋ぎながら、意見を出し合おう。(2分間)

トピック：高校生がアルバイト (part-time job)をすることについて、あなたは賛成ですか、あるいは反対ですか。 [memo]

---



---



---

#### 課題1 p. 68 ★ペアで英語で意見交換してみよう。

16 人は、着ている服によって言動が変化すると思うか。あなたの考えを100語程度の英語で説明しなさい。(愛知教育大学)

★解答のコツ★ 第一文または主張(トピックセンテンス) → ②サポートを2つ → ③結論文

★家庭と学校での様子を比較しながら書くとよい。

★衣服が原因ではない→社会的ルール・常識・エチケット・公私の区別について述べる。

第一文の例：I think our behavior changes (does not change) with the clothes we wear.

I think that our behavior changes because of the clothes we wear.

---



---



---

( ) 語

**課題2** 教科書 p.69

**20** It has been announced that a large amusement park may be built close to your high school. Do you support or oppose this plan? Why? Support your opinion with reasons and examples in about 100 words. (静岡県立大学 改)

- ★ 解答のコツ:「(一般論) + 主張 + サポート(2つ) + 結論」
- ★ (一般論は FREE の Recycle:問題文を活用する: It has been announced that a large amusement park may be built close to my high school.)
- ★ 自分の学校生活を念頭に書くとよい。

---

---

---

---

( ) 語

## 資料 6

## 第6回 休日講座 国公立対策 英作文講義 2018.7.14.

3年( )組( )番 氏名( )

Today's Goals: 今日の目標

- ☐ これまで5回の講座の復習をし、英作文を書くポイントを説明できる。
- ☐ 「一般論」(譲歩→逆説→主張の流れ)を理解し、使うことができる。
- ☐ パラグラフの構成を理解し、前回よりもやや長い英作文(意見文・感想文)を書く際に応用できる。
- ☐ 英作文における自分の強みと弱点を把握する。

## 1 これまでの復習

## ★コツ①: “FREE”

F=

R=

E=

E=

## ★コツ② プレインストーミングする。

## ★コツ③ 説明文:( ) ⇔ ( )

★情報: ジャンル分析 (塩川春彦 2018、2000-2016 年の国公立大学入試英作文 1584 題分析)

種類	定義	例	割合
意見文 (Expositions)	…賛成か反対か、立場を明確にして論述。/ある人物や集団がどう行動すべきか論述。	日本人は和食をもっと食べるべきか。(2016 広島大)	( ) %
個人的感想 (Personal Reflections)	ある事についての好みや価値観について書く。自分の実体験、仮の想定や空想について書く。	尊敬する歴史上人物について理由を含めて説明しなさい。(2011 一橋大)	( ) %
考察 (Discussion)	客観的に利点・欠点・特徴な度を論述。(賛成か反対など、立場を取らない。)	大学に進学する長所について具体的に英語で論じなさい。(2013 愛媛大)	( ) %
その他 (説明、描写、物語創作、手順など)	出来事についての説明。ある言葉の説明。物語を自分で作流。何かの手順を説明。	日本のポップカルチャーが日本以外でも人気になった要因を2つ挙げなさい。(2014 鹿児島大) 救急車、辞書、自動販売機、動物園を英語で説明しなさい。(2002 筑波大)	( ) %

ア 47.9 % (779) イ 9.8 % (158) ウ 13.9 % (225) エ 28.4 % (462) /

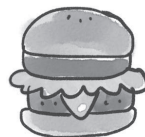


## ★ コツ④ ハンバーガー理論（パラグラフの構成）

(1) 序論（トピック+主張）（＝ ）センテンス

(2) 本論（根拠・理由）（＝ ）センテンス

(3) 結論（再主張）（＝ ）



## ★ コツ⑤ 日本語のエッセイと英語のエッセイの違い（大井 2008）

	日本語	英語
論調	①（ ）的	②（ ）的
内容	③（ ）な話題	④（ ）な話題
構成	⑤（ ）の羅列	問題⑥（ ）型
文体的特徴	一人称体、口語表現（don't, isn't など縮約形を多用、and, but, so などの等位接続詞を文頭に多用）	三人称体や無生物主語の多様、If・Why, How の文型で表され流ように論理的な言い回し
解釈の責任（書き手 or 読み手）	⑦（ ）が責任を負う	⑧（ ）が責任を負う

選択肢
 身近    解決    書き手    エピソード    客観    抽象的    読み手    主観

## ★ コツ⑥ つなぎ言葉の引き出しを増やそう！

1 理由	because, since, as, because of, due to, That's because ~
2 追加	and, also, Another, Furthermore, Moreover, In addition
3 類似点	Similarly, Likewise, Also, like, alike, both A and B, similar to, the same as, not only A but also B, compared to
4 相違点	On the other hand, In contrast, However, Although, While, but, differ from, whereas, even though, yet, unlike
5 例外・代案	although, instead, except, even though, otherwise, unless, while, yet ,
6 言い換え	In fact, as a matter of fact, That is, In other words
7 譲歩	even though, I agree that....., but..... , while it may be true that...



8 順番	First, Second, After that, Last, First of all, Before, Now, Next, Finally
9 結果	as a result, as a consequence, therefore, thus, for these reasons, consequently
9 結論	Thus, In short, In conclusion, therefore, In summary, To conclude, To summarize

## 2 前回の essay から

Common mistakes : それぞれの英文を正しく書き直しましょう。

1. I feel relax when I sear a room wear in my home.

→ \_\_\_\_\_

2. Some people say If only I could go to an amusement park every day.

→ \_\_\_\_\_

3. A large amusement park will make very large sounds.

→ \_\_\_\_\_



## 3 (1) ペアで以下のトピックについて、自分の意見を話してみましょう。

トピック : “The abacus is out of date.” Do you agree or disagree with this opinion? Give specific reasons to support your answer.

[memo]

\_\_\_\_\_

(2) 模範解答を読んでみましょう。

[memo]

\_\_\_\_\_

### 課題 1

“The abacus is out of date.” Do you agree or disagree with this opinion? Give specific reasons to support your answer.

★解答のコツ★ ①トピック＋主張（譲歩→逆説→主張） ②サポートを2つ → ③結論文

★①トピック＋主張 : 「譲歩→逆説→主張」

Some people say that the abacus is.... However, I think we need... I have two reasons for this.

★一般論の効果 : (1) 説得力が増す (2) 読み手に強い印象を与える

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ ( ) 語

**課題2** Read the passage below and follow the instructions.

During the past four decades, the number of convenient stores has grown rapidly in Japan. Today, they are virtually everywhere, serving people in both urban and rural areas. Some people say that convenient stores have a positive influence on Japanese society, while others argue that the influence is negative.

Instructions: Choose one side or the other on this issue, and write a well-developed paragraph in English consisting of around 100 words, giving details and reasons for your choice.

(九州大)

★ 解答のコツ: 「主張 + サポート (2つ) + (結論)」。(一般論がないパターン)

★ 「一般論 (譲歩→逆説→主張) + サポート (2つ) + (結論)」

★ 書き出しの例: I believe that convenience stores have a positive / negative influence on Japanese society. I can point to two reasons. / I can give two reasons.

---

---

---

---

( ) 語